

平成28年度実施の交付金事業の効果検証について

別紙1

交付金	地方創生加速化交付金	主管課	シティセールス課
			産業政策課
事業名	農商工連携を核とした明石産品販路拡大プロジェクト		

事業費(計画額)
 交付金額(10/10)
 事業費(実績額)
 事業費(内訳)

平成28年度	合計
20,000千円	20,000千円
20,000千円	20,000千円
20,000千円	20,000千円
委託費	18,400千円
旅費	600千円
消耗品費	1,000千円

1 明石市第5次長期総合計画および総合戦略での位置づけ

長期総合計画における位置づけ：4まちを元気にする
 4-1 地域産業を元気にする
 総合戦略における位置づけ：まちの賑わいを高める

2 事業概要

明石産品(タイ、タコ、ノリなどの水産物をはじめ、軟弱野菜、スイートコーン、イチゴなど)のさらなる販路拡大に向けて海外への販路開拓を行うとともに、国内においても、ブランド化を進めるための取組を行い、国内外の消費拡大、流通量の増大につなげる。

①明石産品の海外への販路拡大
 マレーシアにおける物産展への参加、現地の日本料理店へのサンプル提供など、明石ダイや明石ダコなど明石産品の普及促進を図るとともに、アジアの大型商圏であるシンガポールやバンコク等にも販路を拡大するための取組を行う。

②学校給食への明石産品の利用
 子どもたちの食育の材料として明石産品を活用することにより、地元意識の向上、定住につなげるとともに、給食食材の提供を販路の一つとして定着させていく。

③明石産品のブランド化
 ノリキャンペーンの実施等、個別の産品の知名度を向上させる取組の実施により明石産品の特徴や強みを際立たせ、ブランド力の向上をはかる。

3 本事業における重要業績評価指標(KPI)

明石産品の取扱高(国内)	104億円	(平成27年度見込:100億円)
明石産品の取扱高(海外)	1億円	(平成27年度:0円)
卸売市場内の就業者数	5人増	(平成27年度:65社800人)

4 本事業終了後における実績値

明石産品の取扱高(国内)	107億円	達成
明石産品の取扱高(海外)	600万円	未達成
卸売市場内の就業者数	増減なし	未達成

5 指標値と実績値に増減があれば、その主な理由

海苔の売り上げが高かった
 タイとは継続して取引できているが流通量は少ない。また、マレーシア、インドネシアでは営業活動は行っているが取引につながっていない。

6 事業目的

明石産品の海外販路のさらなる拡大をはかるとともに、農商工の連携を定着させ、これを活用することにより、明石産品を効果的に市内外にPRし、流通量の増加につなげていくため。

7 事業効果

【事業を実施した効果と課題】
 ・半夏生たこまつり、明石新のり恵方巻まつりでは、生産者団体、商業者団体、学生等が連携しながら明石産品の一体的なプロモーションができた。また、アジア圏への明石産品の輸出の足掛かりをつけることができた。

【今後の取り組み】
 ・今後も、財源を確保し、販路の拡大を行うなど、明石産品のブランド化を推進し、国内外の消費拡大、流通量の増大につながる施策の継続に努めていく。

8 長期総合計画推進会議における評価

(1)意見
 ・物価水準が低いことや水産資源が豊富なことなどを踏まえると、タイをターゲットにしたことは適切でないと考え。
 ・事業自体は、非常に有益な事業であると考え、今後ともこの事業を継続して頂きたい。
 ・国内における事業目標としては達成している反面、海外については第一歩を踏み出したに過ぎず、腰を据えた事業展開が必要である。
 ・KPIの未達成部分はあるが、当初の目標が高すぎたことも踏まえ、概ね達成しており、事業評価できる。

(2)事業評価

①本事業が、「まちの賑わいを高める」ために有効であった
 ②本事業が、「まちの賑わいを高める」ために有効とはいえなかった

9 実績値や外部有識者からの評価を踏まえた事業の今後について

(1)今後の方針
 ②事業内容の見直し(改善)を行う

(2)今後の方針の理由

限られた財源の中で、今回の事業実績をもとに、海外のターゲットなど改善を行なったうえで、独自で事業の継続を進めていく。また、生産者、商業者、卸売業者等が密に連携し、消費者ニーズや時代のニーズに沿った事業展開を行うことで、明石産品を効果的に国内外にPRし、取引高の増加につなげていく。

平成28年度実施の交付金事業の効果検証について

別紙1

交付金 主管課

事業名

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	合計
事業費(計画額)	1,500千円	4,500千円	6,000千円	12,000千円
交付金額(1/2)	750千円	2,250千円	3,000千円	6,000千円
事業費(実績額)	1,500千円			
事業費(内訳) 委託費	1,500千円			

1 明石市第5次長期総合計画および総合戦略での位置づけ

長期総合計画における位置づけ：4まちを元気にする
 4-1 地域産業を元気にする
 総合戦略における位置づけ：まちの賑いを高める

2 事業概要

あかし市民広場を活用したラジオ、テレビなどの公開録音・公開録画イベントの実施、明石の歴史、文化などの情報発信をすることにより、市域全体の賑わいの創出及び回遊性の向上を図っていくとともに、あかし市民広場が市民の憩いと交流の場として活用されることにつなげていく。

【平成28年度】

平成28年のオープニング時期に合わせ、あかし市民広場や再開発ビル内に開設する「あかし市民図書館」「あかしこども広場」「あかし総合窓口」など各階のフロアにおける設備や機能の紹介、様々なイベント情報や明石の魅力を発信する。

【平成29年度、平成30年度】

年4回の四季による特色のあるイベントを開催し、情報発信能力が極めて高いマスメディアを活用した情報発信を行う。
 (主なイベント予定)
 ・7月下旬：観光PR隊イベント ・10月上旬：ひょうごまちなみガーデンショー
 ・12月下旬～1月上旬：カウントダウン、正月イベント ・3月上旬：春旬祭

3 本事業における重要業績評価指標(KPI)

観光客入込数	525万人	(平成26年度実績値489万人)
20代、30代の人口増加数	850人	(平成26年度実績498人)

4 本事業終了後における実績値(平成28年度)

観光客入込数(平成28年度)	501万人	達成状況	未達成
20代、30代の人口増加数(平成28年度)	547人		未達成

5 指標値と実績値に増減があれば、その主な理由

観光客入込客数については、一部調査地点が減少したため入込客数が減少したものである。

6 事業目的

明石の魅力を広く市外に発信することで、明石のブランドイメージを醸成するため。また、市外に住む人に来訪を促し、移住・定住促進を見据えた活動につなげるため。

7 事業効果

【事業を実施した効果と課題】

・あかし市民広場が市民の憩いと交流の場として活用されることに努めた。オープン当初は、市民に施設の認知を上げていくため、ラジオ、インターネット、SNSなどの媒体を活用した情報発信に積極的に取り組んだ。

【今後の取り組み】

・積極的なイベント誘致及び自主イベントを開催し、恒常的な賑わいを創出していくことで、市民の憩いと交流の場として活用されることにつなげていく。

8 長期総合計画推進会議における評価

(1)意見

・駅前に新しい施設を整備したことにより、観光客数だけではなく、普段の通行量が増えていることについても評価できる。
 ・シティプロモーションを今後進めていくに当たっては、コンテンツを充実させる施策が不十分である。
 ・平成28年度のKPIの達成状況は未達成という状況であり、評価として有効といえない。

(2)事業評価

①本事業が、「まちの賑いを高める」ために有効であった

②本事業が、「まちの賑いを高める」ために有効とはいえなかった

9 実績値や外部有識者からの評価を踏まえた事業の今後について

(1)今後の方針

②事業内容の見直し(改善)を行う

(2)今後の方針の理由

今回の事業実績をもとに、自主事業を中心としたコンテンツを充実させるなど改善を行なったうえで、事業の継続で進めていく。来場者ニーズを捉え、市域全体の賑わいの創出及び回遊性の向上につなげていく。